



## ご存知ですか？「顎変形症」

かくへんけいしょう

歯科口腔外科 医長 原田 沙織

顎変形症は、上下のあごの骨(顎骨)の形や位置の不調和により、咬み合わせや顔貌に異常をきたした状態です。日本人で最も多いのは「受け口」と言われる下あごが前に出た状態(下顎前突)ですが、他にもいろいろな病態があります。

### 症状は？

①機能障害…咀嚼障害・食べものを咬みづらい。構音障害…「サ行」「タ行」が発音しにくい、相手に言いたいことが伝わりにくい。

②顎顔面の変形…上下のあごの骨の大きさや位置のずれにより、形態的な不調和を生じる心理的なコンプレックスを抱く。

③虫歯や歯周病等の歯科疾患にかかりやすくなる…あごの骨の大きさの不調和により、口が閉じづらく、口の中の環境に悪い影響を及ぼし、歯科疾患のリスクが高くなる。

歯並び自体によっても、上手に歯磨きがしづらい等、いろいろな症状があります。

### 治療法は？

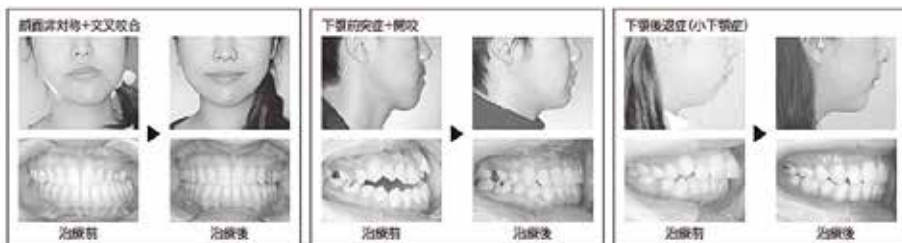
子どものうちは、矯正治療だけで対応可能なこともあります。しかし、成人以降、あるいは変形や不調和の程度が大きい場合には「かみ合わせを治す歯科矯正治療」と「顎顔面の変形を治す顎矯正手術」を併用して治療します。これを外科的矯正治療と呼び、日本では1990年に保険適用となりました(矯正治療と手術の両方に健康保険が適用)。しかし、

30年以上経った現在でも、この治療が保険適用であることをご存知ない方が多く、当科を受診される患者さんでも「もっと早く知っていたら、治療を受けたのに」と何うことが多くあります。

### 治療の目的は？

保険適用での治療ですので、前述した機能障害を改善することが最大の目標となります。かみ合わせやあごの骨の前後関係や左右の位置関係を治療することで顔の変形が改善され、結果として「見た目」も変化しますが、美容目的の治療ではないため患者さんの「見た目に対するご要望」が全て解決する治療法ではありません。

しかし、この治療に伴って顔の変形が改善されることで、心理的な安定が得られたり周囲との関係性が好転したりする方も多くおられます。また、歯並びが良くなってかみ合わせが改善す

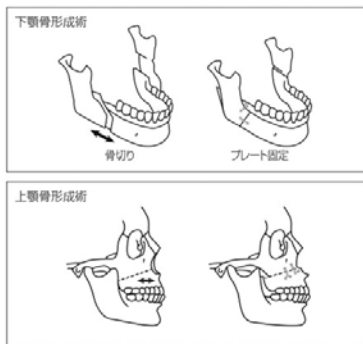


治療例

ることで、長期的に安定した状態を保てるようになります。歯科疾患の予防にもつながります。

### 治療の流れは？

矯正歯科医と口腔外科医が連携し、治療していきます。治療はどの歯科医院でも受けられるわけではなく、いろいろな条件を満たした認定施設で行います。市内や近隣の市にも数軒、認定を受けた歯科医院があります。



手術イメージ図

### まとめ

治療期間は平均2〜3年ですが、治療を受けた患者さんの多くは機能障害の改善により日常生活に良い変化が起きています。食べづらい、喋りにくい等で日常生活に支障を感じておられる方、成長期を経てかみ合わせが変化してきていると感じておられる方等、お困りの方はかかりつけ歯科医院にご相談ください。

- ①該当医療機関を受診
- ②各種資料の準備…レントゲン写真、口腔内の模型等
- ③分析、診断
- ④必要に応じて検査や歯科疾患治療
- ⑤術前矯正治療…手術を前提として歯並びを整える
- ⑥顎矯正手術…あごの骨の位置関係を改善する  
(当科でも施術可能)
- ⑦術後矯正治療…歯並びの最終仕上げ、微調整
- ⑧保定治療…きれいに並んだ歯並びを安定させるための装置を装着